

瘦身美女でも努力次第でなく：

コスマラックス神戸を訪ねて



この秋は細身の女らしいシルエットに挑戦したい。ちょっとローウエストに幅広のベルトを——と腰回りを眺めて深い溜息。暑すぎた夏のせいだ。ついついビールを飲み過ぎて、その結果がヒップにしつかり表れている。

ナントカシナクテハ!の乙女心で南京街の"コスマラックス神戸"へ駆け込んだ。何しろ、2時間で5cmダウンの痩身美容と、肌にやさしいオリーブオイルのフェイシャル美容"というのだから、女性なら誰しも興味を持つというもの。

このエステティックサロン経営者の黒島健司さんは6年前に開業元町に開店したのは一昨年。大衆エステティックサロン経営の他オリジナル化粧品の開発、卸、小売業や撮影、ステージ等のファッシヨンアーティストの養成及び実施が事業内容だ。この道に入られた

きっかけは?の間に「女性を相手にした商売は食いつばぐれがないと思ってね。アハハハ」と口元の髪が笑った。学生時代にアルバイトで歌っていたが、スカウトされ本業となり東京でプロ活動を。が、30歳を機に引退して化粧品会社へ入社した。そこで化粧品によるトラブルの多さを目撃したたにしてそれを逆手にとり、無着色・無香料"の皮膚に安性な化粧品を完成し、エステティック技術と結びつけた。「日本ではエステティックがまだ一般女性に普及していないので、定着化を図りたい。料金も思いきって安くしましたよ」

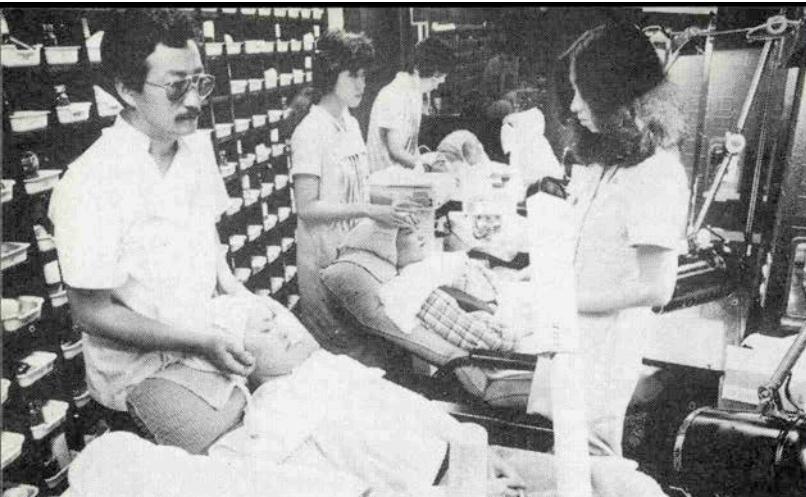
なるほど。このエステティックサロンに18歳から69歳まで幅広い年齢層の女性が通うのも頷ける。さて4階のエステティックルームで、まずはウエストや腹部回り



4Fのエステティックルーム

を測る。指導して頂く森美栄トレーナーはさすがにスマートな人だ。「お腹がでているのは、すき間がないほどに脂肪球が脹らんで大きくなっているんです。オリーブオイルや塩をすり込んで揉み出し、脂肪球を元の大きさに整え、新陳代謝をよくさせるわけです。もちろん食事もバランスよく朝と昼はとり、夜は休むだけですから食べすぎないよう気をつけて下さい」希望に応じてふくらはぎ、太腿、下腹部、上腕部の4カ所に集中し、1コースが大体15回。約2カ月を要する。やはり一朝一夕になるものではない。

森さんが下腹部を揉み始める。雑巾を絞るように贅肉が揉まれ、つままれるわけだから、最初は正直言つてかなり痛い。そう楽して



指導に当たる経営者の黒島健司氏（左）は優しい女性の味方です。

3階は美顔専門で、訪れる人はにきびやシミなど肌にトラブルのある人が多い。特に秋から春にかけては、就職の決まつた女性が、にきびの治療に通うそうだ。チヤーミングな徳永かず子さんによるクレンジングの



基礎化粧品とメイクアップ用の『バミールシティメロディ』、口紅6色、アイシャドウ12色、口紅4色、アイブロウ2色、他ブラシ等がコンパクトにセットされている

は痩せられないことを実感する。次にパンテージという厚手の包帯状の布切を腹部に巻きつける。この時、ふくらはぎや太腿、上腕も巻きつけると効果が上がる。全身ミイラのような格好でサウナへ入る。たらたら汗が流れ始め、やつと15分経過して解放されると思えば、今度は大きなビニールに全身を包まれ横になり、保温のため赤外線が当たられる。もうアカン！ その時冷たいタオルで顔を拭つてもらい、なんとか頑張つてみようと思いついた。ここでまた

20分間ジーッとガマン。やつと終了。いよいよ効

果のほどを測るときがきた やつたあ！ ウエストだけでも4cmも減っている。あれだけ痛い思いをして汗もかいたんだから!! しかし、喜んでビールを飲んだりする。すると、もとのもくあみので、本気で痩せたい人は、強い意志を持って食事にも気をつけること。

3階は美顔専門で、訪れる人はにきびやシミなど肌にトラブルのある人が多い。特に秋から春にかけては、就職の決まつた女性が、にきびの治療に通うそうだ。

●コスメマッサージ
神戸市中央区栄町通1-29豊和ビル3F
☎078-391-4077(代)

後、オリーブオイルのマッサージ。次にオゾンが含まれた無菌水のスチームが当たられる。殺菌作用と毛穴を広げる効果があり、皮膚を柔らかくするそうだ。肌がみずみずしくなっていくようでとても気持ち良い。ガラス製の吸引器でスッポツボツと丁寧に汚れが取り除かれる。さらに赤外線が当たられる。ウトウト…と、しそうになつたところで、冷たい化粧水でパッティング。泡状のオリーブソープで洗顔していっちょあがり。肌がすべすべしている。本日は特別にメイクアップもサービスだ。

ここで使用される基礎化粧品とメイクアップ用品は自社によって開発されたオリジナル品。安全性を重視したオリーブオイル主体のシリーズだ。現在は、全国の同じボリシーを持つ約15ヵ所のサロンへ卸している。近頃はメイクアップスクールも盛んだが、黒島さんは「どんな顔の人も同じメイクでは個性が表われませんし、どの服装を着ても同じメイクでは化粧上手とはいえません」と鋭いご指摘。自分の長所を生かしたメイクでTOPに合わせることが大切だ。エステティックで美しくなると同時に、内面も磨いて心身のバランスがとれた美人になりましょう。

が母体でしたんですよ」。実際、今の劇団員は必ずしも兵庫に生活圏はない。

「でも飲み屋さんが増えたかな。稽古がハネた後よく



演出の合田幸平氏

行くからネ。」の弁に笑い声がある。「下町的な匂いが残っているからこの辺は好き」と女性団員からも。

「酒場で演劇論をかわすこともあります」とは芸術祭公演「ベーバーロックⅡ」の作者、山室一貫さんの言葉。

「うちの傾向はブレヒトです。でも最近はみんな大人になつたのか余り議論もしなくなりましたが……」

★兵庫トピックス★

小誌4月号で紹介し

た映画「兵庫運河」が

9月完成。すでに数回

の試写会が行われ、幅

広い層に好評だ。制作

の成影さんは「11月頃

上映、北野で兵庫を語

る」というイベントを企画中、乞うご期待!

て現実を見直したい。芝居と現実、虚実あいまつたところで生き方を検証しているつもりです」

その言葉をひきついで合



高校生が見学。劇団「どろ」の性格かも。

ここで少し意地悪な質問をしてみた。

田さんも「つか的、作品はおもしろくない」と呼応する。

女性団員も「学生演劇などバターン化されて個性が乏しい気がする」と痛烈に

皮肉る。流行に左右されない同劇団の確固とした信念はとても清々しいものだ。

それに応えるかのよう

に、観客もやや年齢層が高

い。

「でも今度の作品はリアリズム一辺倒じゃありません

よ」と合田さんは強調する。

「ベーバーロックⅡ」のベ

ーべーバーロックとは、エンジン内の蒸気でパイプが詰ま

る状態らしい。

自動車輸出の大手商社で働く主人公は、仲間の裏切

りから組合活動を離れる。そこ

りが楽しみの毎日。そんな

ある日夢の中に星のお姫さまがあらわる……。

「シユールな感覚。見た後

でイメージしてもらえて

ば」(山室)の期待作品であ

る。

■十一月十六、十七日午後

七時、十八日午後一時半、

五時、兵庫区大開通七丁目

四、どろの芝居小屋。前売

りは一般千円。

世界の洋酒
世界のワインが
楽しめる

株式会社 **北野商店**

本店 兵庫区中通1丁目4-31
TEL (078) 577-1181~3
山の街店 TEL (078) 581-2377
名谷店 TEL (078) 791-7171~2

慶びの家具
江戸屋
EDOYA TRADITIONAL INTERIORS

■本店/神戸市 兵庫区塚本通2-1-1
TEL 078 (575) 3120 (代)
■東店/神戸市 兵庫区大開通2-1-2
TEL 078 (576) 0054 (代)

アマの豆ナッツ



株式会社 **有馬芳香堂**

本社・工場 兵庫区下沢通7丁目1番2号
TEL (078) 577-3581
直売店 三宮支店、そごう店、垂水駅
ショッピングセンター、
大丸新長田店(ジョイプラザ)

お好み焼

美丁
Yoshicho

福原金比羅宮西入ル 〒575-7913
平日・PM3~PM10:30
金土日・AM11:30~PM10:30
水曜日定休日

神戸の聚楽館は私に本物の しゆうらくかん



聚楽館の舞台にて演じたパブロワの(瀕死の白鳥)

アンナ・パブロワを見てくれたのだ

パブロワの伝記映画(二時間十五分)、エミーリ・ロチヤヌー監督、ガリーナ・ベリヤーエワ主演、これが今秋封切られる。

パブロワの伝記は一回も映画になつてはいない。ニジンスキイはアメリカで映画化されたがパブロワはない。ニジンスキイとパブロワとニジンスキイの映画化は何度も企画されたが駄目だった。

ようやくニジンスキイが映画になつたがやはりニジンスキイの神技は再演できなかつた。それでチャップリンはこれはアメリカがブロードウェイでミュージカルとしてチャップリン伝記を上演しようとしたがギリギリで企画倒れになつた。なにしろチャップリンになり手がない。パブロワも同じで、あの有名なダニロヴァが一度劇映画中の一瞬の舞台(劇中劇)でパブロワに扮し「瀕死の白鳥」を踊つたことがある、三分間くらい。しかし、あのダニロヴァでさえとてもパブロワは再演できなかつた。ダニロヴァの手の動きがパブロワではなかつた。

×

私は忘れもしない大正十一年(一九二二)に、神戸の聚楽館でこのパブロワを見た。



聚楽館の舞台で見たパブロワの(とんぼ)

淀川 長治 <映画評論家>

私の十三才のときである。今から六十二年もまえなのに、いまもあさやかにその舞台は目に浮かぶ。

この大正十一年には神戸のメリケン波止場の広いあき地に大きな天幕を張って興行したアメリカの「ヒップドローム・サーカス」の大一座が来た。外国人のサーカスの華やかさにびっくりした。

そのころに……アンナ・パブロワ一座が来演した。これは「ヒップドローム・サーカス」とはちがう。少年ながらこのパブロワこそは見なくちやと身構えた。

そのころの聚楽館の美しさは御想像以上だ。東京の帝国劇場そっくりの造り、白い大理石と真赤なじゅうたん。ロビイの上のシャンデリア、場内天井にはイタリア美術画のスタイルで天女が雲の上を舞う絵が描かれ、シャンデリアも華麗であった。劇場内のロビイの左右の外は小園になつていて小さな噴水があり、そこではアイスクリ



映画「アンナ・パブロワ」

ームやサイダーも飲めた。神戸最高の豪華劇場だった。

×

思い出したがヴァネッサ・レッドグレイブが「裸足のイサドラ」（一九六八）でイサドラ・ダンカンの伝記映画に主演している。このヴァネッサ扮するイサドラ、この映画のイサドラはなかなか巧みに踊つてみせた。ニジンスキイ、イサドラ、そして今ついにパブロワが映画になつて、映画が描く舞踊史は、これでやつと落ちついだ。あとはアメリカが生んだルス・セント・デニス、このモダン（アメリカ）ダンスの元祖くらいである。そしてそのルス・セント・デニスのデニシヨウ舞踊団も私は神戸の聚楽館で、大正十四年（一九二五）に見た。

大正十一年から大正十四年、そのころの神戸の聚楽館の美しさ豪華さをどう伝えるべきかと迷うくらいである。風格があつた。品格があつた。大正時代の本物のぜいたくが聚楽館を包んでいた。

それにしてもあるのパブロワの「瀕死の白鳥」を「とんぼ」を聚楽館の舞台で見たときの十三才の私は聚楽館が金色に輝いた。いまもパブロワの白鳥が目に見える。トンボのキラキラ光る四枚の羽根が目に見える。

そのころは劇場内はすべてほとんど着物であった。西洋人と日本の軍人とお役人だけが洋服だった。パブロワの夜、デニショウンの夜、聚楽館の前には自動車、人力車が、その聚楽館の入口を埋めた。両親と三人の子供が晴れ着姿で打ち揃つて一等席におさまる晴れやかさ。そのころ映画館が二十銭の入場料なのにパブロワは特等が十五円。いまにすると十万円近い金であったのに、聚楽館は夜の八時からの開幕に七時ごろには、もう満席だった。東京についてパブロワを神戸が迎えたその神戸を私は誇りたい。パブロワは二〇名の一座をもつて来神した。パブロワの相手役はアレクサンドル・ボーリニンだった。

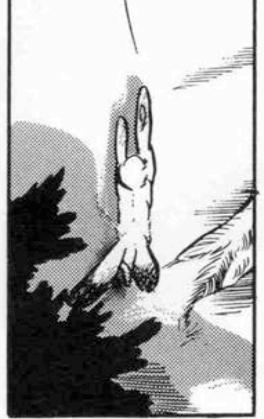
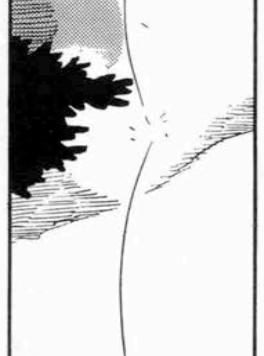
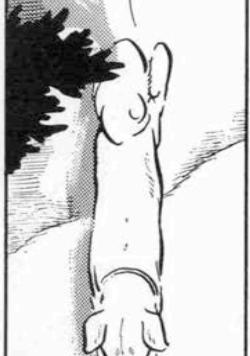
日本に来るまえこの二人はニューヨークで踊つていた。映画の「アンナ・パブロワ」はこの彼女をとりまく実在の人たちをも興味深く紹介している。

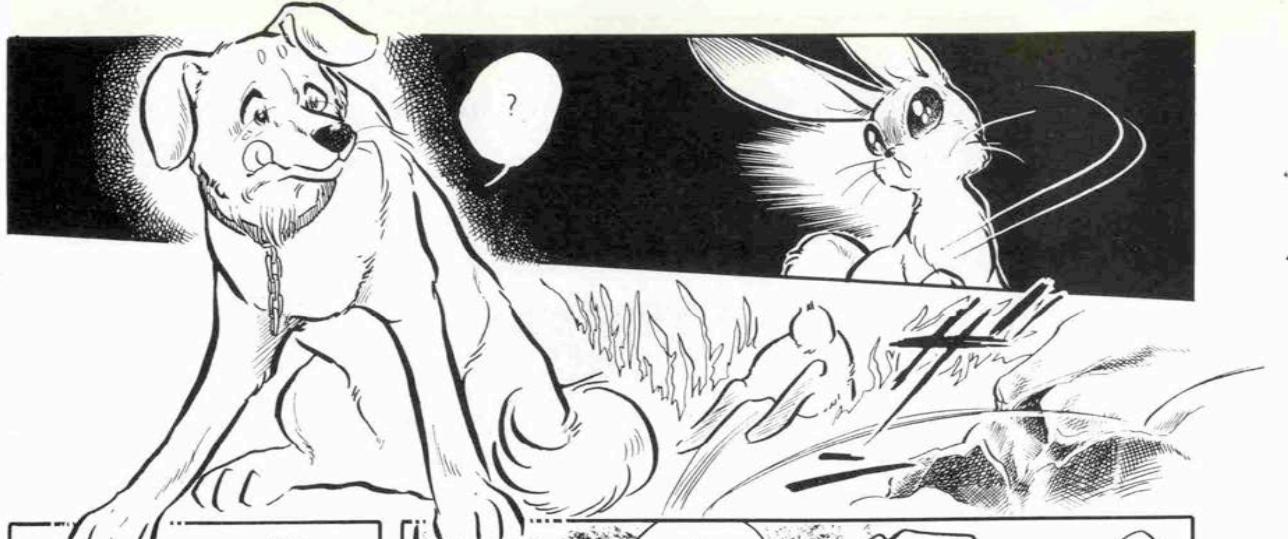
□コスモ・ファンタジー

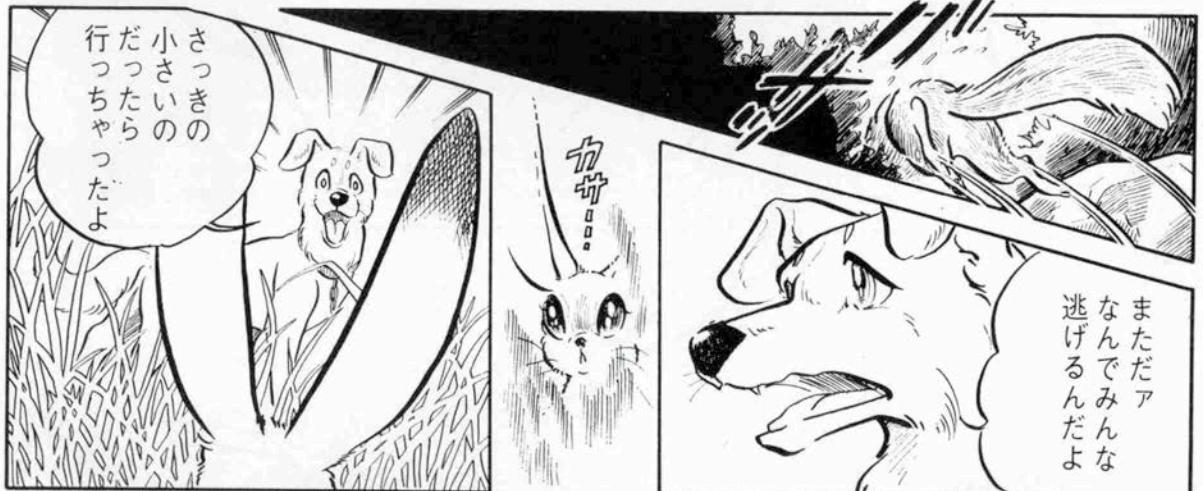
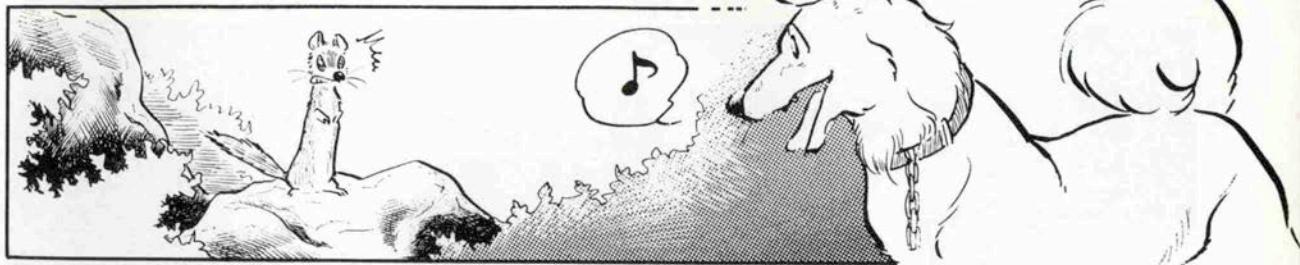
数1000回の明日こそ













★神戸ファッション市民大学OBによるグループ

<神戸のファッション都市化をめざす>

事務局/神戸市中央区東町113-1 大神ビル9F

月刊神戸っ子内TEL (078) 331-2246

●9月のマンスリーサロン

遊芸空間が生きる 都市こそ、 新しい都市の姿

講師 水谷穎介(建築家)

9月のマンスリーサロンが、9月21日、市立勤労会館において、講師に建築家の水谷穎介先生を迎えて開かれました。今回のマンスリーサロンは、テーマ「創る」のPART I。「都市を創る」についてスライドをmajieで語っていただきました。

「今日は、私自身都市・建築をどう考えているかということをお話し、またスライドでは、都市・建築の個々の例をみいただき、都市・建築計画の姿勢をつかんでいただこうと思っています。都市・建築を考える場合、3つのことが問題になってくるのですが、1つはポートコミュニティです。都市には、交通が重要なポイントになります。都市と都市とのコミュニティが交通であり、特に港と都市とのコミュニティが大事になってきます。神戸市でいえば、これは比較的うまくいっているんです。第2に、建築の基本で



ある「まち住区」ということがあげられます。都市の中で、生活と経済が分離されがちですが、ほんとうの都市というのは、職住共存型がはりめぐっていないとだめです。そこで、都市構造と産業構造の複合により都市を形成していく「まち住区」という概念が、生まれてくるのです。具体的にうまくいっている例では、生活と経済の共存した街が連合している、京都の都市があります。第3には、「遊芸空間」です。「遊芸空間」というのは、『仕事や家庭から離れ、スポーツ、レクリエーションさらには勉学や芸術の活動の場である遊芸空間が生きる都市こそ、一つの新しい都市の姿である』という概念に基づく言葉であり、最近の都市づくりでは、この「遊芸空間」の利用がうまくいっていません。特に大阪などでは、「遊芸空間」の成り立ちを破壊しているようです。以上のように、都市

と建築を語るには、3つのことがポイントになると思うのですが、いずれにしても、都市というのは、建築の集りであって、建築が立ち並ばない限り、都市にはなりません。ただ問題は、単に建築が並んでいるだけでは、都市にはならない、生活空間でなければいけない、ということです」

●新入会員紹介



岡本滋子

(西島ドライクリーナー)

私は、神戸に来て約6年になりますが、いろんな意味で視野を広げて勉強していきたいと思って今回、K・F・Sへ入会させていただきました。神戸の街で感じることは、やはりエレガントな女性が多いこと。また親子連れのお客様というのが特徴ですね。現在は、秋も深まり大変忙がしい日々を送っています。

神戸ファッション研究所 設立基金募集中!

●11月のマンスリーサロン

—恒例ファッション公開講座—

日時 11月14日(水)

P.M. 6:30

場所 市立勤労会館 7F

大ホール

講師 亀谷長三

*85春夏物ヨーロッパファッション情報
(スライド付、会費は2000円)

●12月のマンスリーサロン

—クリスマス大会—

日時 12月20日(木)

場所 生田神社会館



杜氏とは、酒を造る職人の頭ですが、酒造りの職人を総称して杜氏と呼ぶこともあります。杜氏の出身地、兵庫県丹波地方は、日本最大の杜氏出身地で、江戸時代宝暦年間における記録が残されているほど。その丹波出身の杜氏の手によって銘酒・小鼓は醸造されています。

兵庫県氷上郡市島町中竹田 合名会社 西山酒造場 ☎07958(6)0331



但馬は、兵庫県北部地方に位置し、冬季は山里で2メートルの積雪をみることもまれではありません。現在約2000人の季節酒造工が全国の酒造場で日本酒の生産に励んでいます。香住鶴の石津六郎翁は但馬杜氏の優秀な技術と伝統を受け継ぎ、労働大臣賞を受賞した名杜氏です。

兵庫県城崎郡香住町森 香住酒造有限会社 ☎07963(6)0029

天然原酒 Bottle 瀨

そのまま冷やして…
オン ザ ロックで…
氷割りにして…
お召し上がり下さい



灘の生一本

清酒 大黒正宗

株式会社 安福又四郎商店醸



OPEN

●ベニヤ “銀座エルベ店”

順調なすべり出し 東京銀座メルサ1Fに、1月25日オープンしたペニーライフの新店舗「銀座エルベ店」が、予想以上に好評。「スポーティーアンダーバー」「レガンス」をコンセプトにしたアダルトな商品展開が、30代女性客層に評判を呼んでいる。レディスを中心で、アパレル、アキューピック、ラネロ、T・シングル、オールラウンド、ティップといったブランドで構成されている。メンズのアパレルは、人気商品のレノマ。

好調なすべり出しに乗って、ワンブランド展開ではなく、お客様にライフスタイルを提案できるトータルブティックを目指すということである。

PEOPLE <26>



●新しい分野だから徐々に勉強を。

渡辺忠雄マキシン新社長

忠雄氏は、大学を卒業後、前社長の片腕となり22年間勤めてこられた。今までには全くはたけの違う営業専門であったため「これからは、当分の間は自粛しながら、徐々に新しい分野の勉強をしていくつもりです」と語っている。これからのお活躍を期待したいもの。

PRESENT CORNER

TOPICS

●モロゾフセントラル街本店の喫茶コーナーが新装されました。手づくりパイコーナーが新設されました。モロゾフにいらしゃり、モロゾフの大人気キャラクターのハローウィンデーになります。●ベニモ皮店発行「おしゃべりミンク」の第4号が発行されました。今回の「おしゃべりミンク」

ショッピングモール	カジナルファーフロア
日時	11月16日(金)11:00~
12..15, 2..00	5..30の4回
回行	なわれます。
ペニ一毛皮店	神戸市中央区
1階	8..1..2..2..1..3
3..2..7	(代表)
●二つ茶屋町本店	が9月30日
新装オープン。	岡本店/東灘
区岡本1丁目5の5ダイソ	ビル/電4552-0570

A black and white photograph of a mannequin torso. The mannequin is wearing a white, button-down blouse with a dark, ruffled collar. The blouse is tucked into a white, full, flowing skirt. The background is a plain, light-colored wall.

●マスヤからブラウスを

婦人服のマスヤより、今年の秋の新作ブラウスを2名様にプレゼントいたします。花のブローチがついたブラウス(白)、リボンをアクセントしたブラウス(カラーは白・ピンク・赤・黒どれでも可)の2種類より、お好きなものをどうぞ。(商品は、いずれも1万円相当)

A circular metal lid with a decorative floral pattern and a small rectangular label in the center.

●ゴンチャロフ製菓から

新製品「ショコラブルーン」を
この秋、ゴンチャロフから
『健康果実、ブルーンをメイン
にしたチョコレート菓子「ショ
コラブルーン」が発売されました。
スィート、ミルク、ホワイト
の3種類があります。8個入
セッ‌トを10名様にプレゼントいた
します。

書箱、電話代行サービスが国鉄三ノ宮駅北側のビルに開設、反響を呼んでいる。

このセンターはインフォメーションハウス・ロイア



ル（中央区琴緒町四ノ三ノ二、神明ビル2F 電221-10323）

メールボックスやロッカ

ーを備え、プライベートレ

ターや替えなど、個人の尊

重に一役買っている。

またスタッフ全員英語を

話せるため、通訳翻訳のパ

イリングガルサービス、娛樂

情報の提供など肩代わり。

経営者の吉田さんは「ア

メリカで覚えたビジネスが

心配していた隠湿な利用が

ない」と明るさを強調。会

員を募集している。

■入会金十円、年会費一万四千円

メリカで覚えたビジネス。心配していた隠湿な利用がない」と明るさを強調。会員を募集している。

★「衣食」たりて、住の時代

80年代後半は、女性の生き方や暮らし方を見つめ直す「ミズの時代」といわれ

ているが、なかでも人気の高いインテリアコーディネ

イタ―、町田ひろ子（イターナ・ヨーロッパ・アートディレクター）が9月22日、

神戸国際交流会館大ホールで開かれた。

インテリア・コーディネ

イタ―というの、暮らしの中、自分の暮らしをよ

り良くし、そのノウハウを

市、展示会、集会、式典

コンサートやショ―、国際会議など多彩な目的に

対応できる設備が内蔵され

れているという。

当時はワールド体育馆

という構想であったが、

神戸はコンベンション都市を目指しており、この

ホールの性格も（アーリ

に隣接してワールド記念ホール（神戸ポートアイ

ランドホール）が完成披露された。

近代建築工学の粹を集めたといわれるだけであつて、スポーツ競技、見本

多くの人々の個性にあわせて伝える、いわば、住む人

と建築家のパイプ役。

キッキン、リビング、寝室の配色や採光、家庭のコ

ミニニケーションを女性の立場から見直す提案など、

参加者たちに新しい生活感覚としてカルチャーショッ

クを与えたようだ。あなたも暮らしを見つめ直せんか。



熱演するインテリア・コーディネイター町田ひ

ろ子さん

□問い合わせ、講座内（サロン）ド

・ボートピア（インテリアスクール）

電302-1111または、フロ

ンヴィルホールムズ大阪 電079

8-74-6644まで

★姉妹誌「月刊オール関西（小泉康夫編集長）が、4月創刊から10月発行で半年を迎え、大阪の大閑園1Fガーデンで10月12日午後6時より「月刊オール関西を励ましたりする会」を開催。浜村淳の司会でヨーン・シェバードのショードの約800名が集った。月刊オール関西は購読料年間八〇〇円、お申込み〒533大阪市福島区福島3丁目1ノ59イカリビル3F（月刊オール関西）電06-43301

★嵯峨御流（吉田泰巳理事）の神戸所と稽古場が、フランコードドに移転。〒65神戸市中央区八幡通4丁目2-9フランコードビル801電078（261）5321

★本誌好評連載中の「エトランゼの輪郭」に描いた南和三（社長）の輪郭が、前田泰三社長の1985年版のカレンダーになりました。

★神戸市消防局の機関誌「雪（消防局長重成裕）」編集長・瀧田哲夫氏が10月号で400号を迎える。10月17日に神戸風月堂ホールで記念祝賀会が開かれます。（会費三千円）

★ジャズ・ボーカルの森哲也さん（トア・ロード・サンタントノーレ）が転居。新住所は〒651-11神戸市北区君影町6丁目1ノ4電078（59）8273

★カマラの竹崎謙司氏のアンコール写真展「エキゾチック神戸（パレードII）」が、三宮・東京銀行神戸支店で10月1-31日まで開かれます。

★カワノ株式会社（河野忠博社長）が、10月9日に異人館のアーティストアーケード2F（アートギャラリー）アルカンシェル（浜野功店長）を開店。バド

ルを中心商品に北野町界隈の神戸発オリジナルを売り出す。中央

区山本通2丁目14-22電078（22）07

花時計



完成オーブン

ポートアイランドの南

西部、スポーツセンター

に隣接してワールド記念

ホール（神戸ポートアイ

ランドホール）が完成披

露された。

近代建築工学の粹を集めたといわれるだけであつて、スポーツ競技、見本

グイベントが熱狂ワールド

この意味でもワールド

記念ホールのオープニング

にあらうことが推測され

るこの意義が大きい。



すべて古陶器の逸品です

裕久

(鉄道津本山各駅から徒歩3分)
場が近くに変わりました)

種類) の他に、うずら、すずめ、
の風味をご賞味ください。

・今月の一品・

「古染付八寸皿雁塔題名・杏林春燕図」

一枚の皿を上下二つの図柄に分け、それぞれに春秋の風物の絵を配しています。写真では向って上が秋の図。遠方に塔、手前に雁と蘆を配し、秋の感じが巧みに描き出されています。他に、伊万里染付幾何文様飯茶碗、伊万里花唐草なます皿を御覧いただいております。





畜音機から流れる軍歌、そして今や抜かれんとする日本刀／<万博>に広がる世界

国際都市コーゲーと聞いて、異人館や国際交流会館しか連想できない人は、「アンノン族」症候群におかされていると言わねばなるまい。

コーゲーの特色の一つをなす国際色が、もっとも濃密に漂うのは、ガード下——それも国鉄元町駅から西の部分、つまりは、「モトコー・セブン」と「あじさいの街」なのである。

「ガイジン」と言うと、なぜか白人系の欧米人を指すようだが、神戸に住む外国籍の市民の圧倒的多数は、朝鮮・中国・東南アジア・インドと、要するに「第三世界」に属する人たちなのだ、ということを忘れてはいけない。現にモトコー以西のガード下を歩いていると、欧米偏重に傾く日本の語学教育に毒された私たちには聞き取れないさまざまな国の言葉が耳に入ってくる。

にぎやかに品定めしている客たちの大半は、中国・東南アジア・インドあたりの船員さんたちらしい。ときには、にぎやかなスペイン語も聞こえる。中南米の人たちだろう。

カタコトまじりに訊ねてみると、たいていは常連さんで、なにしろ、日本の良質な電気製品・カメラ・時計・服が、たいへん安く買える、珍らしい骨とう品もあるし……と、ニコニコ顔で答えてくれた。家族へのおみやげ

・恋人へのプレゼントを買つたり、友だちに売つてもうけることもある、ということだった。

彼らは、ふつう国鉄・神戸駅の近くから、つまり、ガード下の西端から入つて元町・三宮へとぶらぶら歩きする。私も、それに習うこととした。

何軒か過ぎると、ガアガアと、針音の入つた軍歌のコードが聞こえてくる。見ると、骨とう屋の店先に、昔なつかしい手廻し蓄音器があつて、SPレコードが鳴っている。もちろん、いずれも商品なのである。

「万博」なるほど名前にふさわしく、ガラクタ博物館のおもむきがある。

古いドイツ製のカメラなんかもあるが、こここの目玉は「軍人物」とかで、旧軍隊の階級章・軍票・軍服が並べてある。こんなもん、だれが買うんかしら、とフシギに思うが、「万博」の陽気な店主・小山博司さんは、「けつ



平日でもこの賑わい、モトコー7<上>所狭しと置かれる商品。次から次へと積み上げられているよう<中>なかなか良さそうなシャツがある<下>おっ軍服。売れるのかな<左>

こう戦友会の人なんか買ひはりまつせ。ほら、この少尉の軍服、七万円で売約済みでんがな」と、胸を張つた。外人には日本刀がモテるらしい。

さらに先へ進むと、今度は、中古品の靴とか背広やミシンなどを一杯並べた店が、何軒か目についた。わが家では、祖母が大正時代に買ったシンガーメーカー製の足踏み式を、いまだに使つてゐるが、それよりさらに古い手廻し式までちゃんと売つてゐるのにはおどろいた。

が、かと思えば、主流を占める家庭電器・雑貨の店にまじつて何十万円もする茶器や書画などを飾つてゐる高級美術・骨とう商——たとえば「古休庵」なんかもあつたり、れっきとした紳士服を売る店も点在する。その一つ「三喜屋」のウインドーで人目を惹くのは、六万円のコルク・レザー・スーツで、布地ならぬコルク地(?)の独特的、細かい斑らが綺麗で、艶のあるベージュのシャツだ。さて、こんなのが着て女子大生に登校すると、大いに注目を浴びるにちがいないが、いかんせん、フトコロと相談するとムリがありすぎる。で、薄茶に黒い細かなチェックのウールのシャツ(五千円ちょっと)でガマンした。

八〇円のカセツト・テープ、一万円の小型カラーテレビ、六千円のギター(中古)、四万円のテレビつきラジオセラ、千円のスポーツ



船員ふうの外人さん、ジャケットを指さし「この衿のついたブルー、ブルーを探してくれ。」

シャツ、千五百円のコールテン・ズボン……と、まるで「年中バーゲン」みたいな「特価品」が並ぶこの蚤の市の真ん中には、立派な古書店もあって、「皓露書林」は、ささやかながら、マニアが見逃がせない古本屋さんで、すべて硫酸紙のカバーをつけた文芸書を、ぎつり並べている。

初版本の棚もあり、いまでは手に入らない戦後的小説がたくさんあるが、私は、田村泰次郎の短篇集（昭和二年刊）と、織田作之助の最後の妻（織田昭子）の回想記を、買うことにした（二千六百円ナリ）。この本はすべて、値段を書いた手づくりの版画カードが裏に貼つてあり、店主の床しい趣味をうかがえる。

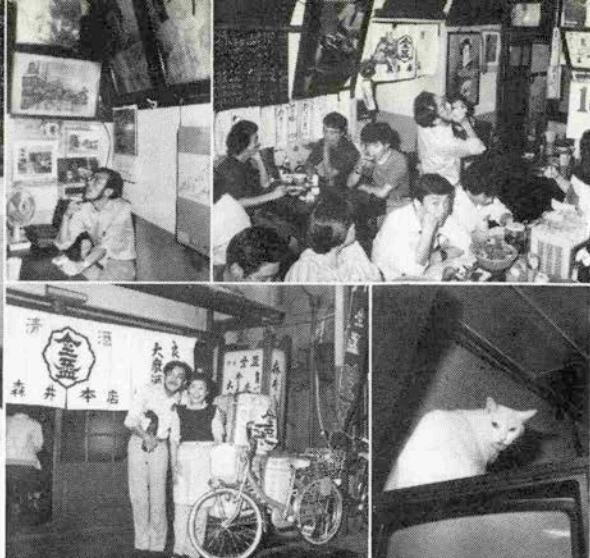
こうやって、たくさんの店を覗いているうちに、オナカがすいてきたので、なにか食べれる店はないかナ、と

思っていると、モトコータウン二番街の東寄りに、漢字に朝鮮語のハングル文字を添えた焼肉屋の看板が、いくつか目についた。さっそく、そのうちの一つ「釜山」に入つてみると、朝鮮語が飛び交つていて、柔軟なおばあちゃんが一人、小さなお店を切り盛りしていた。

近ごろはデラックスな焼肉店は多くなって、三宮せんの街にある「清香園」は近代化した老舗の代表だが、おばあちゃん・張玉姫さんのお店は、むしろ「焼肉」の原点たる「ホルモン焼き」が専門で、めん類やビビンバは置いてない。その代り、私はここで、韓国産焼酎「眞露」というのを飲ませてもらった。これは、どこの酒屋でも買えないから、当分、自慢できそうな初体験である。

近所の商店の人たちもふくめて日本人の客は少ないそなたが、中年の韓国人船員さんが独りでビールを飲んでいた。張さんに通訳してもらしながら、日本と韓国ちがいなんかを、私たちは語り合った。そして、「カムサミダ（ありがとう）」と言つて、二千円ポツキリ（ビールも一本飲んだので）を払つて出た。ここには、また誰かを連れて来てみたい。

で、ゴキゲンになつて元町へ向かいながら、さらに三つの買い物をした。まず、モトコータウン二番街・東角の「レンセイ製菓」ではこの店自慢のユニークな大きいクッキーハーフ（三百六十円）モトコータウン一丁目の東端に近い超バーゲン店「フジイ雑貨」で、スリー・シーズのブルーノン（五千八百円）を買った。「世直し価格」を謳うフジイはヤングが一杯で、店頭には、「一着で五百円、四着なら千円」というシャツやズボンがうず高く積み上げてある。たぶん、私のブルーノンは、この店では高級品（）だろう。が、三宮の「ふれあい通り」に出ると、私は、六・七万円の輸入ブランド物が並ぶ「タイル靴店」では、いちばん安いクラスの、しかしちょっとシャレた新デザインの靴を、一万六千円ナリで買ったの



若者があふれる森井商店<上右>うーん懐しいポスター<中>主は私!<下右>森井のおばさんと記念撮影<中>安くておいしいからワイワイやれる<左>

というわけで、おカネと体力をかなり使った「ガード下」探訪は、ひとまず終わったのだが、しめくくりは、村松友視や大森一樹も出没するとかいう、居酒屋の大老舗「森井商店」(阪急西口通)で、「いわし卯の花」をサカナに梅チューで仕上げることにした。壁には、戦前の女優がニッコリ微笑む大きなポスター(お酒の広告)が数枚貼られ、先代の時代の古ぼけた看板も掲げられていて、この店で飲める「金盃」が宮内省御用酒だったと知られる。狭い店内にデーンと置かれた大きなテーブルは、厚さが一五センチはありそうな台湾楠で、これまた戦前のものである。

陣頭指揮の女主人・森井種子さんは、バルモア学院出身のインテリだが、敗戦直後にこの店をお父さんから継いだのだという。

ここには、昔の学生酒場のような雰囲気が残っていて、いかにも「談論風発」のおもむきがあり、一步足を踏み入れると、たちまち書生気質にもどるような気分になる。なんとなくクリスタルっぽくなってしまったコ一ペだが、「ガード下」のところどころには、まだ、「戦後」はもちろん「戦前」の面影さえもが、どこか残っているのである。



★メモ
高架下は、三宮駅から西出口までの△三宮織維街▽元町駅までの△三宮高架商店街(ふれあい通り)▽と△モトコータウン一丁目▽△モトコータウン2▽△元高3番街▽△花園南商店街▽モトコ一五▽△あじさいの街▽△モトコ一七▽△の9ブロックからなっている。
万博 341-3 5 4 7、古休庵 371-1 7 7 9、三喜屋 341-0 1 5 2
皓露書林 361-3 1 6 9、レンゼイ製菓 331-2 4 0 9、フジイ雑貨 5 5、クイン靴店 351-2 5 1 1、森井商店 331-1 5 0 7 1